

岩手医科大学報

Iwate Medical University News

2013・10 vol.445

●発行者—理事長・学長 小川 彰 ●題字—名誉理事長 大堀 勉



学生の談話風景 ～矢巾キャンパス東屋前にて～

〈写真撮影：編集委員 畠山 正充、10月3日(木) (関連記事：P9)〉

おもな内容

- 巻 頭 言 リエゾンセンターの果たす役割 リエゾンセンター長 佐々木 真理
- 特 集 文部科学省がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン活動2年目の状況 がんプロコーディネーター 杉山 徹
- トピックス 歯学部臨床フォーラムが行われました
- フリーページ すこやかスポット歯学講座No14 「歯ぎしりによる歯の喪失リスク」 補綴・インプラント学講座 助教 田邊 憲昌

リエゾンセンターの 果たす役割

リエゾンセンター長
医歯薬総合研究所 超高磁場MRI診断・病態研究部門 教授

佐々木 真理



この度、人見次郎前センター長の後任として4月1日付けで知的財産本部リエゾンセンター長を拝命致しました。人見前センター長が中心となって築き上げてこられた産学官連携推進（リエゾン, liaison）の重責を担うこととなり、身の引き締まる思いです。

リエゾンセンターは、産学官連携活動と知的財産の創出・活用を通して優れた研究を育成しその成果を社会還元することを目的に、本学と社会との架け橋として平成19年に設置されました。複数の専任スタッフに加え、弁理士、産学官連携コーディネータ、知的財産管理アドバイザー等の外部専門家を招いて、産学官連携推進と知的財産マネジメントに関する多角的な活動を行っています。

産学官連携推進に関しては、1）本学の研究シーズの発掘・発信および企業ニーズとのマッチング、2）医工・医農等の異分野連携の環境整備、3）産学共同研究・受託研究のコーディネート、4）利益相反のマネジメント、5）種々の情報収集・情報発信等を通して、企業・地域・他大学との連携を円滑に進めるよう努めています。最近では、厚生労働省革新的医療機器等開発事業に全面協力し、プロジェクトの進捗マネジメントなどの多面的サポートを行っています。今後は、

外部トランスレーショナルリサーチセンター等との連携を通して、橋渡し研究基盤の更なる充実を図っていく所存です。

知 的財産マネジメントに関しては、1）発明委員会による職務発明の評価や大学継承等の審議、2）発明相談会の開催、3）特許出願・取得の支援および管理、4）技術移転（ライセンスアウト）の支援、5）知的財産セミナー等の教育プログラムの開催等を通して、本学の活発な教育・研究・診療活動から生み出される知的財産の保護と有効活用を図っています。今後、知的財産コーディネータなどの人材育成にも力を入れていきたいと考えています。

異 分野融合によるライフイノベーションの推進が強く求められている今、リエゾンセンターの果たす役割は益々大きくなっていくことが予想されます。本学の特色である医歯薬連携・講座横断的研究を更に発展させ、岩手発の新たな技術や事業を世界に向かって発信するお手伝いができますよう、微力ながら全力を尽くす所存です。教職員の皆様の益々のご支援・ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。



文部科学省がんプロフェッショナル 養成基盤推進プラン活動2年目の状況

がんプロコーディネーター
産婦人科学講座 教授 杉山 徹



1. はじめに

(1) がんプロフェッショナル養成基盤推進プランとは？（通称：がんプロ）

文部科学省の大学改革推進等補助金事業で、以下により定義されています。

がんは、我が国の死因第一位の疾患であり、国民の生命及び健康にとって重大な問題となっている現状から、「がん対策基本法」が制定（平成19年4月施行）されました。

この基本法の中で、手術、放射線療法、化学療法その他のがん医療に携わる専門的な知識・技能を有する医師その他の医療従事者の育成が求められています。

そのため本補助金を活用して、複数の大学がそれぞれの個性や特色、得意分野を活かしながら相互に連携・補完して教育を活性化し、がん専門医療人養成のための拠点を構築することを目的として諸事業を実施します。

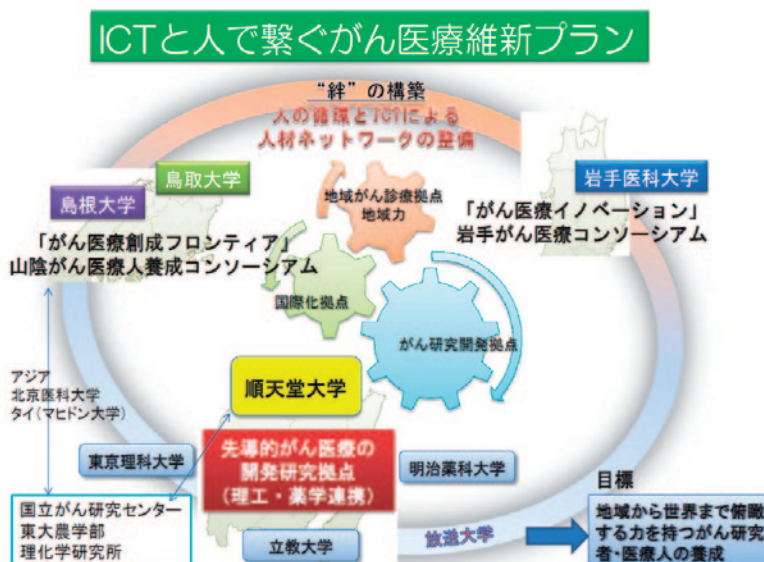
これにより、高度ながん医療、がん研究等を実践できる優れたがん専門医療人を育成し、我が国のがん医療の向上を推進します。

(2) プログラムの概要

第一期がんプロ補助事業により、各大学はがん専門医療人の養成を行い、がん医療の底上げに貢献してきました。今後は、全国のがん患者さんに対して均等に医療人養成の成果を還元し得る臨床の連携、基礎と臨床が協働する医薬看理工連携が課題となっています。

本プランでは、本学を含んだ連携医科系大学と非医科系大学間をICTと循環型人材交流で結び、地域と首都圏、そして世界へ向けて、さらに基礎から臨床まで俯瞰するがん研究者・医療人の養成を目的とします。具体的には（１）順天堂大学に先導的がん医療開発研究センターを整備し、これを拠点とし、（２）東京理科大学・明治薬科大学・立教大学との共同橋渡し研究の体制整備と実施、（３）鳥根大学、鳥取大学、本学の構築するコンソーシアムと理薬工学系大学をICTと人材交流で繋ぎ、臨床・研究・教育に一気に風穴をあける平成のがん医療維新を引き起こしたいと考えています。

プログラム名	ICTと人で繋ぐがん医療維新プラン
申請主幹校	順天堂大学
プログラム実施校	岩手医科大学、順天堂大学、鳥根大学、鳥取大学、東京理科大学、明治薬科大学、立教大学（計7大学）



(3) 本学におけるがんプロへの取組状況

がん対策基本法の施行に伴い、平成19年度より「がんプロフェッショナル養成プラン」補助事業が開始されました。本学でも大学院医学研究科に「臨床腫瘍学」(博士課程)と「がん薬物療法学」(修士課程)の2つのコースとインテンシブコースを新設し、資格取得を目指す医師・薬剤師の養成を行うとともに、全国から集まった医師が、本学において低侵襲治療の手技等を学んで地元に還元する等の人材交流も活発に行ってまいりました。その一方、附属病院内に腫瘍センターを整備する等、機構改革を進めてきました。また、連携大学、行政、病院、職能団体等による「北東北がん医療コンソーシアム」を設立し、がん医療均てん化に向けて育成されたがん専門医療人をどのように活かしていくか議論を重ねています。こうした第一期がんプロ事業は5年間の補助期間を終了し、文部科学省からも一定の評価が与えられました。

平成24年度からの第二期「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」では、順天堂大学を主幹校とした合計7大学の連携で「ICTと人で繋ぐがん医療維新プラン」をテーマに新たながんプロ事業に取り組むこととなりました。首都圏と東北・山陰の地域と遠距離の連携事業に威力を発揮するのはICTです。連携大学の運営連絡会議や本学と順天堂大学間で実施している定期的なカンファレンスではテレビ会議システムを効果的に利用しており、平成25年度には共通カリキュラム講義の双方向ライブ配信も実施しております。

シンポジウム、ワークショップは毎年連携大学の持ち回りで開催することになりますが、本学は、平成24年度に本プランの基盤となる共通カリキュラムの策定を目指すワークショップを安比高原で開催しました。連携大学から約40名が集まり活発な議論を経て有用なプロダクトを残すことができました。このプロダクトを基盤としたICTとface to faceが機能する「がん医療維新プラン」が始動しています。

2. 本学が設置している教育コース

●先導的がん臨床研究に精通した医療人育成コース (インテンシブ)

養成する専門分野	・トランスレーショナルリサーチ (TR) マネジメント ・レギュラトリーサイエンス
コースの履修対象者	先導的がん医療システム開発コンソーシアム (がん医療イノベーション) の参加者を対象とする。 ・医師／看護師／薬剤師をはじめとした医療人 ・医療系／理工系研究者 ・医薬品／医療機器開発企業担当者 ・事務職
概要	地域で求められる標準的医療の均てん化・先進医療技術の習得および将来へ向けた次世代がん研究 (医薬品、医療機器など) に向けた臨床研究を立案・実施・支援できる人材を広く育成することを目的とする。標準的医療の均てん化推進や先進医療技術の習得のためには、薬剤の適正使用、手術手技・放射線照射技術に精通した医療人を育成する。同時に医薬品・医療機器開発に関わる研修を通じて生命科学や理工系の知識、TRを学び、患者さん中心の臨床研究を実施できる、あるいは支援できる人材の育成を行う。
受入人数	年間5名程度
修業年限	1年間 (3単位)
研修内容 履修科目	1) PMDA (医薬品医療機器総合機構) の研修にて医薬品・医療機器開発過程や安全性情報伝達を学ぶ 2) ASCO (米国臨床腫瘍学会) / ESMO (欧州臨床腫瘍学会) での臨床研究の状況を知る 3) その他、コースコーディネータが研修遂行に有用と認めた学会、研究機関、公的機関への研修 4) 標準的医療の均てん化や先進医療技術習得に資する研修交流 5) 上記 (1-4) は研修受講者の伝達講習会を適宜受講する 6) 臨床研究を支援できる医療人以外の人材育成のための学会や講義形式、e-learningでの医療やコミュニケーション能力を学ぶ

※ 本コースは、無料で研修が受けられます。詳細は医学部教務課 (内線3111) までお問い合わせください。

●緩和ケア地域連携を支援する指導的医療人育成コース（大学院 医学研究科）

養成する専門分野	緩和医療
コースの履修対象者	大学院医学研究科修士・博士課程
概要	地域がん医療に貢献するがん専門医療人養成に重点を置くコースとして、平成25年4月から同コースを本学医学研究科修士・博士課程に設置。修士課程においては、患者さんもしくはそのご家族が抱える、身体的、心理社会的、あるいはスピリチュアルな諸問題に適切に対応しうる緩和ケアに精通した、各専門職種からなるスキルミクス指向型の指導的医療人育成を目標としている。また、博士課程においては、がん治療と平行して行う、緩和ケアチームアプローチにおける中核を担う医師を育成することを目標としている。さらに、がん治療認定医、緩和医療学会専門医の取得を目指す。

3. 平成25年度の各種事業について

本 学 分

行 事 名	実 施 時 期
岩手県合同がんセンターボードミーティング	毎月実施
岩手緩和ケアテレカンファランス	毎月実施
乳腺カンファランス	毎月第4水曜日（予定）
連携大学ICT講義（本学開催分）	平成25年5月14日
平成25年度岩手県がん登録研修会	平成25年9月27日
市民公開シンポジウム（がんを知る月間2013）	平成25年9月29日
北東北医療コンソーシアム総会	平成25年10月12日
市民公開講座	平成25年10月20日
がんプロ地域シンポジウム	平成25年11月8日

他大学（連携大学）

行 事 名	当 番 校	実 施 時 期
がんプロ連携7大学運営連絡会		年8回程度
特別講義	明治薬科大学	開催時期未定（5回開催）
特別講義	順天堂大学	開催時期未定（3回開催）
連携大学ICT講義	順天堂大学、東京理科大学	平成25年6月12日
神在りの囀がんメディカルカフェ	島根大学	平成25年7月28日
インテンシブコース 夏季セミナー	島根大学	平成25年8月25日
FD多職種コミュニケーション研修	島根大学、鳥取大学	平成25年9月14日・15日
連携大学ICT講義	明治薬科大学	平成25年10月2日
薬学講座	東京理科大学	平成25年10月19日
外部評価委員会		平成25年10月25日
がんプロ研究シンポジウム	立教大学	平成25年11月9日
がんプロ市民公開シンポジウム	東京理科大学	平成25年11月29日
連携大学ICT講義	島根大学・鳥取大学	平成26年1月16日
がんプロ国際シンポジウム	明治薬科大学	平成26年1月中旬
臨床研究合宿	未定	平成26年2月

4. 日本におけるがん医療の均てん化の促進に向けて

ICTの活用とともに連携大学との積極的な人材交流により、本事業を成功させ、岩手のみならず日本のがん医療のネットワークを活用した均てん化を目指します。また、第一期がんプロでできた地域ネットワーク（北東北）と首都圏の医療開発拠点をICTと人材交流で結び、多職種連携で取り組むがん医療維新のあり方を考えていきます。

アイバンク街頭PR活動が行われました

9月7日(土)、イオン盛岡南ショッピングセンターにおいてアイバンク街頭PR活動が行われました。

このPR活動は、アイバンクへの登録推進運動の一環として昭和55年から毎年行われているものです。当日は、PRポスターやパネル展示のスペースが設けられ、本学教職員、関係団体の方々約30人が2000枚のパンフレット等を配布し、アイバンクへの登録を呼びかけました。

アイバンクの機能を十分に発揮するためには、多くの角膜提供登録が必要であり、本学でも多数の方々が角膜移植を待ち望んでいます。登録をご希望の方は、病院事務部医務課内のアイバンク事務局（内線3122）までお問い合わせください。



病院対抗球技大会で本学チームが好成績を収めました

9月8日(日)、盛岡地区23病院による第39回盛岡地区病院対抗球技大会が開催され、本学はバレーボール、卓球の2種目に参加しました（ソフトボールは雨天のため中止）。

本学は例年好成績を収めており、その活躍が期待される中で、バレーボールチームが優勝、卓球Aチームが3位入賞と輝かしい成績を収めました。会場には、多数の本学教職員が応援につめかけ、熱戦を繰り広げる選手達に声援を送っていました。



バレーボールチーム



卓球チーム

歯学部臨床フォーラムが行われました

9月8日(日)、9日(月)の二日間にわたり、ハーバード大学歯学部の教員3名を招聘した歯学部臨床フォーラムが行われました。

160名以上の教員が参加した初日のフォーラムは、岩手県歯科医師会館で行われ、ハーバード大学歯学部のジョン・ダシルバ歯科医療センター長、デイビット・キム准教授、本学卒業生でもある永井成美准教授の3名の先生方と歯学部臨床教授の中里滋樹先生による特別講演等が行われました。

翌日には、歯学部学生、臨床研修医および教育スタッフを対象とした歯学部5年生による症例検討会が本学で行われ、活発なディスカッションが展開されました。



歯学部5年生が参加した症例検討会の様子



歯科医師会館で行われたフォーラムの様子

平成25年度岩手県東北縦貫自動車道合同訓練に本学附属病院が参加しました

9月18日(水)、東北自動車道下り線前沢サービスエリア内において、平成25年度岩手県東北縦貫自動車道合同訓練が行われ、岩手県総合防災室、警察、消防等の県内関係機関とともに本学附属病院が参加しました。

この訓練は、東北縦貫自動車道における多数傷病者事故の発生を想定して行われたもので、サービスエリアに併設されたヘリポートにドクターヘリが着陸し、フライトナースとフライトドクターが負傷者の処置・搬送を行いました。

ドクターヘリは、出動要請からわずか10数分で現場に到着するなど、迅速な救命活動が参観者の注目を集めました。



いわて東北メディカルメガバンク機構の「地域住民健康調査」を開始しました

いわて東北メディカル・メガバンク機構は、9月2日より、岩手県沿岸部の地域住民健康調査を開始しました。

本健康調査は、被災地域の医療復興支援活動の一貫で行われるもので、本年度は野田村、普代村、洋野町、住田町、久慈市、大船渡市の特定健康診査会場と現在開設準備中のサテライト（久慈、宮古、釜石、大船渡）で実施されます。

野田村の会場で行われた初日の調査では、機構スタッフが調査協力者を募り、多数の皆様からご協力を頂きました。調査結果は、健康に関するアドバイス等と共に協力者へ通知されます。



表彰の栄誉

薬学部細胞病態生物学講座 川口 未央 助教が 第86回日本生化学会大会 鈴木絃一 メモリアル賞を受賞しました



薬学部細胞病態生物学講座の川口未央助教が、9月11日～13日に横浜市で開催された第86回日本生化学会大会において、若手研究者や大学院生を対象として選定される鈴木絃一メモリアル賞を受賞しました。本学会は1925年（大正14年）に創立され、生化学の発展と普及に貢献してきました。

受賞した発表内容は、哺乳類細胞における脂質蓄積阻害作用を持つとして真菌から発見された二量体化合物dinapinoneの生合成に関わる二量体化酵素の発見と機能解析についてです。川口助教が北里大学薬学系博士課程において天然物化学講座の藤井勲教授と遺伝子解析についての共同研究を行い、酵素遺伝子の異種発現にまで至った成果を今回の学会にて報告しました。

川口助教は今年度の任用であり、現在は細胞病態生物学講座にて、がん細胞腫瘍化における糖輸送タンパク質の分子機能解析と新規抗がん剤探索研究を検討中です。

岩手医科大学募金状況報告

● 総合移転整備事業募金

～ 皆様のご厚志により支えられています ～

平成21年6月から始めました岩手医科大学総合移転整備事業募金に対し、格別のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

皆様のご厚志は、大学発展の大きな原動力となるものであり、本事業の早期達成のため有効に活用させていただいております。

今後とも関係各方面からの格別なるご協力・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

今回は23回目の御芳名紹介です。(平成25年7月1日～平成25年8月31日)

※御芳名及び寄付金額は、掲載を希望されない方については掲載しておりません。

会社・法人等

<御芳名のみ記載>

医療法人 小原クリニック（岩手県）

（受付順、敬称略）

これまでの募金累計額

区 分	申込件数	募金金額(円)
圭 陵 会	476	392,772,000
在 学 生 父 母	192	170,140,000
役員・名誉教授	40	70,910,000
教 職 員	118	18,735,000
在 学 生	1	100,000
一 般	120	428,442,922
合 計	947	1,081,099,922

（平成25年8月31日現在）

表紙写真について

表紙写真の東屋は、岩手医学専門学校第18期卒業生クラス会の皆様から寄贈され、平成24年12月、矢巾キャンパス琢誠館の南側に設置されました。

東屋には銘板が掲げられており、好学の学風が培われるようにとの願いが込められた金言が刻まれています。

矢巾キャンパスの小憩の場として、学生や教職員に親しまれています。



お知らせ

教育研究組織・附属病院組織の改編について

医学部内科学
講座内組織の改編

【改編前】

消化器・肝臓内科分野

【改編後】

消化器内科消化管分野
消化器内科肝臓分野

附属病院医科診療科
の改編

【改編前】

消化器・肝臓内科

【改編後】

消化管内科
肝臓内科

講座・学科
の設置

【統合基礎講座設置講座】

医学教育学講座

【医学部設置学科】

緩和ケア学科

ラジオ番組・テレビ番組放送中

ラジオ
番組

「岩手医大 ～いのちから～」

- ・放送局 エフエム岩手
- ・放送日時 毎週土曜日 12:00～12:15

テレビ
番組

「健康大百科」

- ・放送局 テレビいわて
- ・放送日時 毎月最終土曜日（予定）
10:00～10:30

第114回大学報編集委員会

日 時：平成25年10月17日（木） 午後4時～午後5時

出席委員：影山 雄太、松政 正俊、齋野 朝幸、藤本 康之、小山 薫、佐藤 仁、米澤 裕司、昆 由美子、

佐々木 忠司、畠山 正充、鈴木 尚子、武藤 千恵子、野里 三津子

すこやか スポット歯学講座 No. 14

補綴・インプラント学講座 助教
義歯外来 医局長

田邊 憲昌



歯ぎしりによる歯の喪失リスク

●歯ぎしりによる障害とは？

寝ている間に無意識に歯をかみ合わせて音を鳴らせる「歯ぎしり」。一緒に寝ている人から歯ぎしりを指摘されたことはありませんか？歯ぎしりは「クセだから」、とか「大したことがない」と放っておく人も多いですが、そのままにしておくと歯がすり減る、歯が割れる、歯周病が悪化するなど口の中のトラブルを引き起こし、歯の喪失につながります。重症化すると顎関節症や肩こり、頭痛など様々な症状を引き起こすこともあります。

●あなたの歯ぎしりはどのタイプ？

1. 上下の歯をすり合わせる（グラインディング）

一般的にイメージされる歯ぎしりで、睡眠中に歯を左右こすり合わせて「キリキリ」という音を鳴らします。睡眠中に多いタイプです。

2. 上下の歯を強く噛み締める（クレンチング）

上下の歯に力を入れてぎゅっと強く噛みしめる歯ぎしりです。音はほとんど立てないので、周囲の人には気付かれにくく、本人の自覚がないことが多いようです。多くは起床時に無意識に発生します。

3. 小刻みに歯を鳴らす（タッピング）

上下の歯をぶつけ合うタイプの歯ぎしりです。「カチカチ」「カンカン」という音を立てるのがクセになっているタイプです。

●どのような治療がありますか？

多くの歯ぎしりの原因として日常生活上のストレスとの関係があります。日頃のストレスの発散行為として歯ぎしりが関与していると考えられており、寝ている間の歯ぎしりに関しては意識して止めることはできません。寝ている間の歯ぎしりは時には食事するときよりも強い力を発揮することもあるためマウスピース（図1）を装着することで歯や顎関節を守ります。同様の装置は日中の活動時にくいしばりをしやすいスポーツ選手の歯を守るマウスガード（図2）としても使用されています。



図1



図2

私の働く矢巾町では、盛岡よりも一足早く秋の訪れを感じることができます。色づきはじめる周囲の山々、風にゆれる稲穂のさざめきは、日々の忙しさを忘れさせてくれる楽しみの一つです。

さて、本号の表紙では琢誠館（学友会館）前の東屋を取り上げました。矢巾キャンパスは刻々と発展していますので、職員の皆様も休日には散策がてら足を伸ばしてみたいはいかがでしょうか？

（編集委員 影山 雄太）

岩手医科大学報 第445号

発行年月日 平成25年10月31日

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画調整課

盛岡市内丸19 - 1

TEL 019-651-5111 (内線7023)

FAX 019-624-1231

E-mail:kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷(株) 盛岡市本町通2-8-7

TEL 019-623-4256

E-mail:office@kahoku-ipm.jp